

令和元年度 委員会活動報告  
令和元年8月1日～令和2年7月31日

学術委員会

■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎三浦 英恵 (日本赤十字看護大学)
- 仲村 直子 (神戸市立医療センター中央市民病院)
- 大江 理英 (大阪府立大学大学院)
- 岡田 彩子 (日本赤十字看護大学)
- 角口 亜希子 (榊原記念病院)
- 金子 伊津子 (横浜労災病院)
- 東雲 紀子 (福島県立医科大学附属病院)
- 瀬戸 初江 (東北医科薬科大学病院)
- 田中 奈緒子 (兵庫県立姫路循環器病センター)
- 濱上 亜希子 (兵庫県立大学)
- 明神 哲也 (東京慈恵会医科大学)
- 若林 留美 (東京女子医科大学病院)

■活動の概要

令和元年度はメール会議等を行いながら、第37回教育セミナー(東京)、第38回教育セミナー(大阪)、第39回教育セミナー(仙台)の企画を行った。第37回教育セミナーは実施となったが、新型コロナウイルスの流行に伴い、第38回、第39回教育セミナーは企画中止となった。「循環器看護の定義及びステイトメント作成に関わるワーキンググループ」では、第16回学術集会交流集会での定義への意見を踏まえつつ、第17回学術集会交流集会の企画を行った。

1. 海外の循環器看護に関する会との交流

2020年10月15-16日にWEB開催を予定している、The Global Cardiovascular Nurse Leadership Forum(GCNLF)への参加の検討を行い、大学に所属している学術委員会委員およびワーキンググループメンバーへの参加を呼びかけた。

2. 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた、循環器看護の定義の検討および策定

第16回学術集会にて、「循環器看護とは何かを考える～グローバルスタンダードと日本の医療動向を見据えて～」をテーマとして交流セッションを行い、循環器看護の仮定義を発表しパブリックコメントを求めた。第17回学術集会での交流集会の企画を行った。

3. 教育セミナーの開催および企画

【第37回教育セミナー】

テーマ:「心不全患者の緩和ケア～深めよう!今からできる心不全緩和ケア～」

日時:2019年12月15日(日)10:00～16:10

場所:日本赤十字看護大学(広尾キャンパス)201

参加者:会員31名 非会員167名 合計198名

■講演1 10:10～11:20

心不全患者の緩和ケアのコツ ～循環器看護師の視点～  
講師:若林 留美先生(東京女子医科大学病院 慢性心不全看護認定看護師)

講演2 11:30～12:40

心不全治療における緩和ケア ～循環器内科医の視点～  
講師:河野 隆志先生(杏林大学医学部 循環器内科学 准教授)

■講演3 13:40～14:50

緩和ケアからみた心不全患者の症状緩和  
～緩和ケア認定看護師の視点～

講師:吉田 小百合先生(東邦大学医療センター大橋病院 緩和ケア認定看護師)

■講演4 15:00～16:00

この事例どう取り組む?みんなで悩みを解決しよう!

事例提供:根井 あずさ先生(東邦大学医療センター大橋病院 慢性心不全看護認定看護師)

コメンテーター:講師の先生方

【第38回教育セミナー】

テーマ:「循環器疾患患者さんを点ではなく線で見る～ライフステージの変化に合わせた看護支援を学ぶ～」  
→新型コロナウイルスの流行を受けて企画中止

【第39回教育セミナー】

テーマ:「事例で学ぶ 心疾患患者へのアドバンス・ケア・プランニング 心不全ステージB～Dの病期に合わせた意思決定支援のコツ」  
→新型コロナウイルス流行を受けて企画中止

以上  
(報告者:三浦 英恵)

学会誌編集委員会

■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎旗持 知恵子(大阪府立大学)

○落合 亮太(横浜市立大学)

稲垣 美紀(摂南大学)

加賀谷 聡子(杏林大学)

北村 愛子(大阪府立大学)

高谷 真由美(順天堂大学)

白水 真理子(神奈川県立保健福祉大学)

宮松 直美(滋賀医科大学)

宮脇 郁子(神戸大学)

■活動の概要

本年度は1回の対面会議と3回のメール審議および複数回の情報共有・情報交換を行い、以下の活動を行った。

1. 日本循環器看護学会誌の発刊

第15巻第1号、第15巻第2号の発刊。会議にて、校正、編集作業を行った。また16巻1号の掲載内容について検討を行った。

2. 電子投稿・査読システムの運用評価・改善

編集委員、査読者の情報交換が効率的にできるようなシステムの修正、および論文投稿者が投稿時に留意事項を確認できるようなシステムのフォーマット等の修正を行った。システムの不具合に関しては学会誌編集委員会事務局担当者に対応を依頼し、改善に努めた。

3. 投稿規程等の確認・改正

今年度は投稿既定の改正は行わず、投稿者が見落としやすいチェックリストの項目の修正を行った。

今後、投稿者の共同研究者資格等の範囲やオープンアクセス等を視野に入れた規定内容の検討を継続していく。

#### 4. 専任査読委員候補者の確保

専任査読者は、学会誌の質の担保を図るため、専任査読候補者の追加等を検討した。新たな追加はなかったが、合計 57 名の専任査読委員を維持している（令和 2 年 3 月現在）。今後も随時、適任者を追加していく。

#### 5. 学会誌への投稿促進のための活動

第 16 回日本循環器看護学会の委員会企画として「臨床現場からの研究成果の発信」として交流会、相談会を実施した。実践現場からの研究の着想、研究計画から実施、論文の作成と投稿そして査読者への対応などについて経験者の発表に基づき、参加者と討議を行い、今後の循環器看護における実践現場からの研究活動の促進への啓発を行った。

その他日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けることも学術誌への投稿促進の一助となるため、学術委員会とともに団体指定の要件等について検討を行った。また学術誌へのアクセスの容易さも投稿の活性化につながることを期待し、メディカルオンライン、J ステージへの登録については投稿規定を見直し後、登録をする予定となった。

以上  
(報告者：籠持 知恵子)

#### 政策・診療報酬委員会

##### ■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎山田 佐登美 (川崎医科大学総合医療センター)
- 竹原 歩 (兵庫県立姫路循環器病センター)
- 多留 ちえみ (神戸大学)
- 藤井 利江 (兵庫医科大学病院)
- 三浦 雅郁子 (地域医療振興協会)
- 山部 さおり (三菱京都病院)
- 渡邊 裕美子 (国立循環器病研究センター)

##### ■活動の概要

###### 1. 厚生労働省のヒアリング

令和元年 8 月 8 日に提案した 4 つ医療技術のうち、「心不全再入院予防指導管理料 (未収載)」と「在宅患者訪問看護・指導料 3 (既収載)」の 2 件について厚生労働省のヒアリングを受けた。(理事長と委員長が出席)

###### 2. 令和元年 11 月 3 日に委員会を開催

以下のことを討議した。

- 1) 厚生労働省のヒアリング結果から、エビデンスの集積の必要性
- 2) 他学会との連携
- 3) 2022 年度診療報酬改定にむけて、重症心疾患患者が地域で暮らし続けられるための医療/看護提供体制のあり方やそのための人材育成等について継続的に検討

###### 3. 循環器疾患看護の課題・成果・展望等の情報提供

令和元年 12 月 1 日

厚生労働省循環器病対策推進協議会委員として日本看護協会常任理事が参画するにあたり、循環器疾患看護の課題、成果、展望等について情報提供を行った。(理事長と委員長が出席)

#### 4. 心不全患者の再入院予防介入プログラム研究の継続 看保連助成金。令和 2 年 12 月末まで。

以上  
(報告者：山田佐登美)

#### 広報委員会

##### ■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎落合 亮太 (横浜市立大学)
- 小泉 雅子 (東京女子医科大学)
- 笹川 みちる (国立循環器病研究センター)
- 高山 直子 (東京大学医学部附属病院)
- 徳永 友里 (横浜市立大学)
- 山中 源治 (東京女子医科大学病院)

##### ■活動の概要

###### 1. 学会ホームページ・会員専用コンテンツの充実

学会ホームページ上に、過去の学会誌を公開する会員向けサイトを作成し、公開準備を進めた。

###### 2. 会員の研究・臨床実践

ニューズレターを発行し、ガイドライン、臨床実践、研究に関するホットトピックについて、会員からの情報発信を行った。

###### 3. ニューズレター第 13・14 号の発刊

通算 13・14 号を作成し、学会ホームページに公開した。

以上  
(報告者：落合 亮太)

#### 倫理委員会

##### ■構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎加賀谷 聡子 (杏林大学)
- 小泉 雅子 (東京女子医科大学大学院)
- 石田 洋子 (日本医科大学武蔵小杉病院)
- 山内 英樹 (東邦大学)
- 横山 さち (ゆみのハートクリニック)
- 鷲田 幸一 (兵庫県立尼崎総合医療センター)

##### ■活動の概要

###### 1. 研究倫理申請の実施

令和元年度は、研究倫理申請が 1 件あり、倫理委員会委員 3 名で令和 2 年 2 月にメール会議による簡易審査を実施した。審査結果を「条件付き承認」として通知し、その後申請者による修正書類が提出され、令和 2 年 6 月に再審査の結果承認となった。

###### 2. 学術集会活動における利益相反に関する指針の見直し

学会に関係する役職者および学術集会発表者などを対象とした「学術集会活動における利益相反に関する指針」の見直しを行っているところである。その他、個人情報保護や倫理綱領に関する問題はなかった。

以上  
(報告者：加賀谷 聡子)

## 国内交流委員会

- 構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)  
◎仲村 直子 (神戸市立医療センター中央市民病院)  
○阿部 隼人 (北里大学)  
明神 哲也 (東京慈恵会医科大学)  
竹原 歩 (兵庫県立姫路循環器病センター)  
田村 綾子 (徳島大学)  
遠藤 美代子 (東京大学医学部附属病院)

### ■活動の概要

1. 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかるため、メール会議を8回開催し、下記の関連学会とのジョイントシンポジウムの開催の承認、座長の推薦を行い、関連団体からの当学会の名称利用、協力依頼について審議した。

### ■開催済み

第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (2020年7月18-19日)におけるジョイントシンポジウム『心リハにおける看護師の役割』(座長:仲村直子氏を推薦、演者:岡田明子先生、西村圭太先生)

### ■開催予定

第85回日本循環器学会学術集会 (2021年3月26-28日)におけるジョイントシンポジウム (座長:三浦稚郁子氏の推薦を承認)

### ■審議事項

1. 第66回日本不整脈心電学会学術集会 (2019年7月24-27日)におけるジョイントシンポジウムの報告;新たな関連団体との交流に関する留意事項の確認
2. 一般社団法人 予防医療普及協会作成の糖尿病予防啓発を目的とした映画に関する当学会の名称利用→内容・企画が不明であるため辞退
3. 厚生労働科研『地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全診療提供体制構築のための研究』および『ガイドブック』に関する協力団体としての名称記載→承認

以上

(報告者:仲村 直子)

## 選挙管理委員会

- 構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)  
◎角口 亜希子 (榊原記念病院)  
西田 和美 (独立行政法人国立病院機構京都医療センター)  
松本 幸枝 (まつもとクリニック)  
辻井 由紀 (兵庫県立姫路循環器病センター)

### ■活動の概要

法人第3期選挙 (代議員選出・理事選出・監事選出)にむけ、WEB選挙を導入し、細則に基づき、選挙を開催し、代議員50名、理事16名、監事2名を選出した。

令和2年

- ・4月:COVID19感染拡大を鑑み、WEB選挙導入の検討
- ・5月:WEB選挙導入に際し、代議員選挙実施細則変更・理事・監事選挙実施細則変更を提案し、臨時書面理事会にて承認を得た。
- ・5月29日~6月19日:代議員選挙開催

・7月23日~8月7日:理事・監事選挙開催

以上

(報告者:角口 亜希子)

## 総務委員会

- 構成メンバー (◎委員長、○副委員長、五十音順)

- ◎瀬戸奈津子 (関西医科大学)  
○齊藤奈緒 (宮城大学)  
大原千園 (関西医科大学)  
若林留美 (東京女子医科大学病院)

### ■活動の概要

下記7題について、委員間でメール会議、及び2回のweb会議を実施した。

1. 各種費用支払い及び、令和元年度中間予算執行状況の確認
2. 入会申請者の確認
3. 慢性心不全看護認定看護師への支援に関する検討
4. 日本循環器学会特定行為看護師養成促進ワーキンググループ委員の推薦
5. 第16回学術集会からの基金用途に関して検討し、研究助成金規程案を作成
6. 定款・規程・細則の見直しに伴い、各委員会からの加筆・修正案をとりまとめ、定款全体の整合性の確認
7. 令和元年度第1回理事会(対面)、第2回理事会(web)、臨時理事会(web)の準備・運営。令和2年度第1回理事会・定時社員総会の準備

以上

(報告者:瀬戸 奈津子)